

福井県よりのオオクワガタの記録，ならびに福井市立郷土自然科学博物館所蔵の標本について

下野谷 豊 一*

福井県のオオクワガタ *Dorcus curvidens hopei* Saunders については、井崎市左エ門氏により1951年8月1日に大野市鳩ヶ湯で採集された1頭の♀により記録されている。(井崎市左エ門, 1959: 福井県博物同好会会報, 第6号)

この標本(Fig.1)は、福井市立郷土自然科学博物館に所蔵されており、さらに同館の標本中と同じ鳩ヶ湯産とラベルの付いたヒメオオクワガタ *Nipponodorcus montivagus* Lewis の1♂(井崎氏採集品)があり、主として照葉樹林帯が生息圏のオオクワガタと、ブナ・ミズナラ帯に生息のヒメオオクワガタが同一地域に分布することに、いささか疑問を感じていた。

この鳩ヶ湯付近は、ブナ・ミズナラ等を主とした自然林が比較的良好に残されており、また多くの同好者も採集に訪れているが、その際、川沿いのヤナギ類よりアカアシクワガタに混ってヒメオオクワガタは少ないながら採集されるが、オオクワガタ再発見の報は全く聞かない。

また、世界のクワガタムシを永年研究されている稲原延夫氏(大阪府茨木市)にこの点について御意見をお伺いしたところ、この両種が同一地域に分布することは先ず考えられず、またそのような例は知らないということで、この御意見と現在までの調査結果などを合せて考えると、鳩ヶ湯にオオクワガタが分布することは疑問と考えたい。

そこで、福井県のオオクワガタであるが、数年前より福井市西安居で採れたとかの噂は耳にしていたが確認できず、詳しい情報を得たいものと思っていたところ、凶らずも1978年7月25日に福井市大安寺町キャンプ場で齊藤和彦君(当時、宝永小学校4年在学)によって採集された1♂(Fig. 2)が生きたまま届けられた。体長は43mmと小型の♂であるが、間違いなくオオクワガタの♂で、福井県産オオクワガタの確かな記録として報告する。なお、大安寺町では1978年と1979年の夏季に、さらに何頭かのオオクワガタが採集されたと聞いている。

ついでながら、博物館所蔵の標本中には上記オオクワガタと同様、井崎市左エ門氏によって採集された蝶類標本中の採集ラベルに記入されているデータ、標本の特徴および現在の知見などから考えると、福井県内に分布することが甚だ疑問に思われるものがかなり含まれており、中には全く信じられないラベルの付いたものさえあるので、それらについて指摘しておきたい。なお、これらの種は、井崎氏により福井県博物同好会会報№2(1955)および「AKITU」Vol. 5(1956)に、「福井県の蝶」として同じ表題と内容で記録されている。

1) ヤマキチョウ *Gonepteryx maxima* Butler (Fig. 3)

本種は「石徹白，昭和9年7月30日，井崎市左エ門採集」とラベルの付いた1♂，1♀があ

* 福井市宝永3丁目31-12

り、井崎氏の生前、正確な採集地を聞いたところ、三面（和泉村）ということで、何とかこのヤマキチョウを得たいものと、ラベルに記してある7月下旬に幾度も三面へ出かけたが、採れるものは全てスジボソヤマキチョウ *Gonepteryx aspasia niphonica* Verity で徒勞に終わった。

このような大型で目立つ蝶が、長年の調査で再発見されないことは絶滅しない限り考えられず、またこの三面付近の自然環境もそれ程大きく変化しておらず、もし分布しているなら恐らく再確認できるであろう。

日本国内における本種の分布は、本州中部の他、東北地方の一部に飛地的な分布地も知られているので、主な分布域より離れていることだけでは分布を否定できないが、今一つ、本種の食草クロツバラの県内の分布について渡辺定路氏にお伺いしたところ、三面付近からは見つかっていないとのことで、さらに詳しくと考え、春早が産卵する頃に出かけ、クロツバラに近似のクロウメドキに産付された *Gonepteryx* の卵を採集し飼育したが、羽化するものは全てスジボソヤマキチョウばかりであった。以上の点から考えても、本種が三面に分布することは疑問である。

2) ヒョウモンチョウ (ナミヒョウモン) *Brenthis daphne rabdia* Butler (Fig. 4)

本種も「石徹白、昭和9年7月30日(1♀)、昭和9年7月31日(1♀)、井崎市左エ門採集」とラベルの付いた2♀があり、この種もヤマキチョウと同様、長年の調査でもどうしても再発見されない。また、この2種とも何故か同じ日に「石徹白」で採れている。

所蔵されている2頭の♀の特徴は、個体の大きさなどと合せて考えると、長野県付近のもの、それも比較的標高の高い地域のものに似ており、また長野県下でも低山地に分布のものは大型で、もし「石徹白」に分布するならばこの低山地のものと同じ傾向のものが採れてもよいのではないだろうか。

それに、本種の食草が本州ではワレモコウであるが、この「石徹白」には分布せず近似の別種ナガボソアカワレモコウが僅かあるだけで、食草の面から考えても本種の分布は甚だ疑問である。

3) フタスジチョウ *Neptis rivularis* Scopoli (Fig. 5)

1♂2♀が所蔵されており、ラベルには3頭とも「五箇村鳩ヶ湯、昭和26年8月1日、井崎市左エ門」と記入されている。

ところが、標本を見て驚いたことに1♂は本州中部の長野県あたりのもの(*ssp. insularum Fruhstorfer*)と同じで、♀も当然これと同じ亜種のものであるはずなのに、♀の方は2頭とも全く信じられない北海道に分布する亜種(*ssp. bergmani* Bryk)で、それも北海道南部産そのものである。

同一地域に2亜種が分布することはあり得ず、この3頭の標本は明らかに井崎氏が福井県産でないものに福井県に産するかのよう「鳩ヶ湯」のラベルを付けて博物館の標本に入れたとしか考えられない。

井崎氏がフタスジチョウの地理的変異について、多分熟知していなかったため、このようにいとも簡単に2亜種の標本を1つの亜種の♂♀として、同一ラベルを付けたものと想像できる

が、もし3頭とも本州中部に分布する亜種の標本に「鳩ヶ湯」のラベルを付けてあったなら、この鳩ヶ湯付近に食草が多く分布していることから、先ずもってラベルの真偽は確かめられなかったであろう。

さらに、絶対にあってはならないことであるが、井崎氏の採集による博物館所蔵標本中には、このフタスジチョウと同様に偽のラベルが付けられている疑いがあるが、再検討の余地あるものが含まれており、蝶では今回指摘のもの以外にヒメヒカゲ・アカセリなどがあり、他の科のものについても再吟味の必要があろう。

末筆ながら、オオクワガタについて御教示賜った稲原延夫氏、日頃より福井県の植物の分布について御教示賜っている渡辺定路氏、それに博物館所蔵標本の撮影をお願いした長田勝氏に深謝申し上げる。

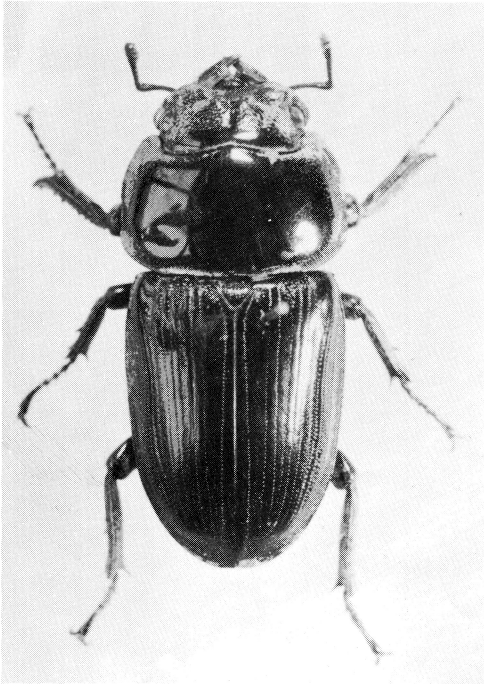


Fig. 1

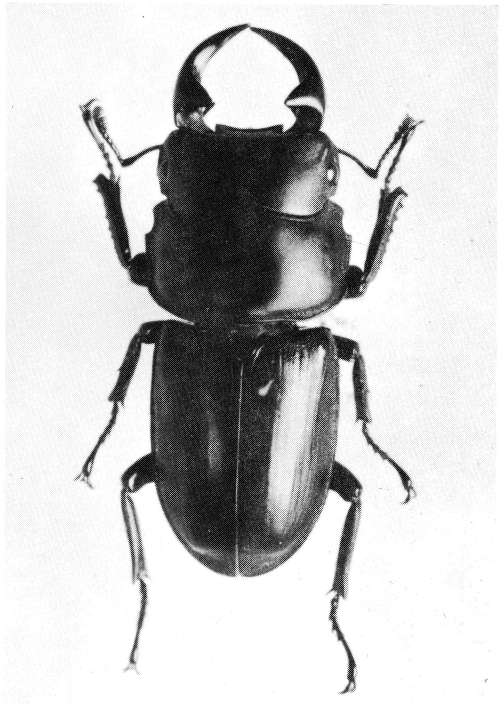


Fig. 2

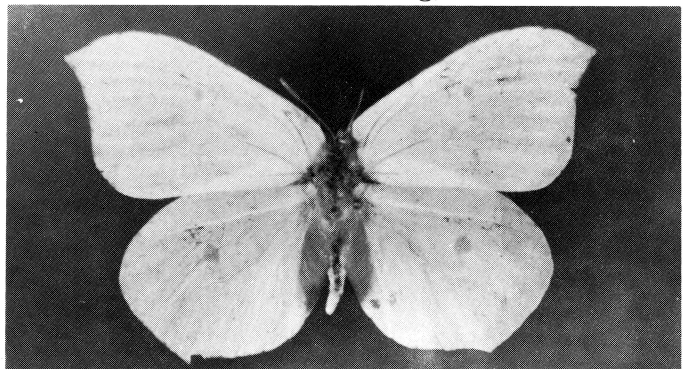


Fig. 3

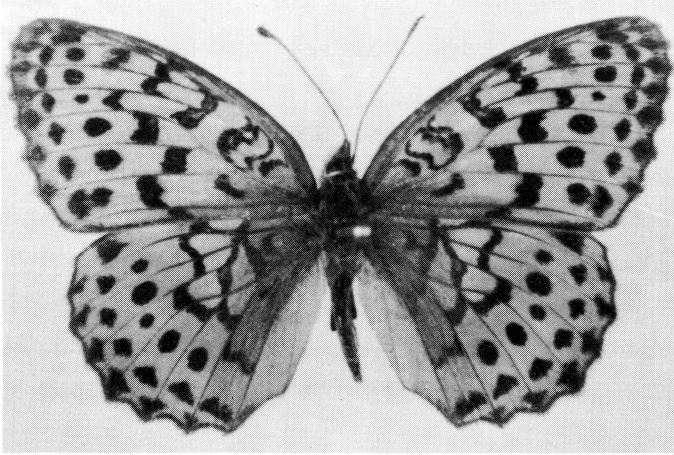


Fig. 4

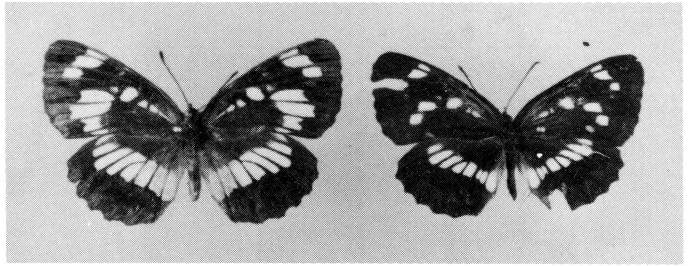


Fig. 5 (♀, ♂)

—短報—

大野市でヒメカマキリを採集

下野谷 豊 一

蛾の夜間採集の折、燈火に飛来したヒメカマキリ *Acromantis japonica* Westwood を採集したので記録する。

1 ♀ 福井県大野市東勝原 Aug. 18, 1979.)

なお、本種については、坂井郡三国町三国神社よりの採集記録がある。(佐々治寛之 (1975): 三国町自然環境保全候補地学術調査報告)

